

## 大鹿村はリニア工事による影響を低減するためJR東海等と協議していきます

大鹿村はリニア工事による生活や環境に与える影響をできる限り少なくし、リニア工事が地域経済や村づくりに貢献されるよう、「大鹿村リニア対策委員会」を昨年12月17日に設置し、要望事項や対策を検討しています。

リニア対策委員会は村内団体や有識者で構成し、住民意見に基づき検討を行います。村は委員会での検討意見を受け議会と協議し、JR東海や関係機関と随時協議を行っていきます。

## リニア着工前の村内調査状況について

JR東海では、大鹿村内で環境影響評価書に基づく水資源調査、リニア工事の着工に向けた検討を目的とした地質調査・道路改良の測量調査を行っています。

これらの調査は事業説明会で説明された内容に基づき、村と関係自治会への周知・説明、地権者の同意を得て行われています。調査に関しては、村と関係住民の皆さん、JR東海と連絡を取り合い、情報の共有と諸問題発生時の対応を行っていきます。

なお、村内調査状況を村民がいつでも確認できるよう、広報の方法をJR東海と協議中です。

○現在行われている調査の状況

調査名	調査内容	調査範囲等	調査期間
水資源調査	・公共水源、個人井戸、個人湧水、地表水 ・水位、水量、水温、pH、電気伝導率、透視度	○釜沢地区 ・事後調査：15ヶ所 ・モニタリング：1ヶ所 ○上蔵地区 ・事後調査：3ヶ所 ・モニタリング：4ヶ所 ○青木地区 ・事後調査：17ヶ所 ・モニタリング：7ヶ所 ・地表水流量観測：3ヶ所	1. 事後調査 (月1回) ・H26.12月～工事完了3年後の間 2. モニタリング (年2回) ・H26.12月～工事の間 3. 地表水流量観測 (年2回) ・H24年～工事の間 ※調査時は所有者に連絡
県道赤石岳公園線の測量・地質調査	・道路拡幅改良検討のための地形測量、地質調査	○上市場地区1ヶ所 ○上蔵地区6ヶ所 ○釜沢地区4ヶ所 ・上記の内5ヶ所で地質調査	・H27.1月5日～3月中旬、日曜日を除く午前8時～午後6時
地質調査	・釜沢非常口周辺の地質調査	○釜沢地区 ・水平ボーリング1ヶ所 ・口径約20cm、1,000m調査	・H27.2月～3月予定 ・日曜日を除く24時間 ※夜間作業に先立ち作業試験を実施予定

## 大鹿村リニア対策委員会報告

### 第1回対策委員会 (平成26年12月17日 午後1時30分～4時開催)

- 正副会長の選任：会長 森上 武、副会長 河本 明代
- 委員の任期：平成26年12月17日～平成28年3月31日まで
- 委員構成：13名

団体名	委員氏名	役職等	備考
大鹿村	柳島 貞康	村長	
大鹿村議会	松下 隆夫	議会議員	
大鹿村議会	河本 明代	議会議員	副会長

大鹿村農業委員会	神田 武	農業委員長	
大鹿村教育委員会	池田 泰登	教育委員長	
住民有識者	森上 武		会 長
住民有識者	岩本 純一		
大鹿村商工会	松尾 勲	商工会長	
大鹿村観光協会	平瀬 長安	観光協会長	
大鹿村建設業協会	神崎 章一	建設業協会長	
飯伊砂利採取販売協同組合	吉川 篤	飯伊砂利組合理事長	
下伊那魚協大鹿支部	小原 寿夫	大鹿支部長	
大鹿の100年先を育む会	前島 久美	育む会代表	

○報告事項：リニア事業説明会の内容と質疑応答、要望事項に対する事業説明概要

○委員からの主な意見

- ・小渋川橋梁の地中化を継続して要望すべき。
- ・橋梁設置の方向で対策の検討をするべき。
- ・送電施設は鉄塔ではなく地中化を求める。
- ・小渋川沿いの代替道路のルート案を委員会で検討し、J R 東海及び関係機関に要望すべき。

○委員会についての意見

- ・住民の意見を吸い上げて検討できるよう、それぞれの委員が意見を持ち寄ってほしい。
- ・委員会の内容が住民に伝わりにくいので方法を検討する必要がある。
- ・委員会は検討のためのもので住民の総意ではないことをJ R 東海と書面で取り交わすべき。
- ・住民への周知は広報紙や情報の発行などによる方法で良いのでは。

○次回の委員会は、J R 東海への要望事項の検討を行うこととした。

## 第2回対策委員会（平成27年1月26日 午後1時30分～4時30分開催）

○委員会についての意見

- ・一般の傍聴について規定がないので、正副会長と事務局で検討し委員会で協議する。
- ・現実にリニアが通ることについて対応を考える会議である。それぞれの意見が全て反映されるわけではないが、委員会として提出された意見の他、違う意見もあったことをJ R 東海や関係機関に伝える努力をお願いする。
- ・誰がどのような意見を言ったか議事録を取り住民に公表すべき。
- ・当委員会は議会などと違い責任も違う。今までと同じように検討内容の公表が良い。
- ・委員会の内容や発言内容がわかるよう広報し、個人を特定する議事録は作成しなくて良い。

○協議事項：J R 東海への要望事項の検討

○委員からの主な意見

- ・トンネルは24時間掘削の計画であり、夜間に仮置場等に運搬する計画があるか確認が必要。
- ・小渋川橋梁の地中化が200m深くなる根拠や地中化が困難な理由など、J R 東海の説明が必要。
- ・小渋橋梁は地形地質・防災上問題がないか、第三者の専門家の意見を聴いてから判断する。
- ・小渋線は工事車両が増加するため、国道152号分杭峠方面、松川大鹿線の改良促進が必要。
- ・青木非常口からの残土運搬車両の騒音対策のため、堂垣外農道等の利用検討を要望。
- ・小渋川沿いの代替道路は、小学校への騒音や大気質の影響が大きいため、対岸の計画を要望。
- ・松川インター大鹿線は四徳大橋の改良を含め、全線2車線を要望してほしい。改良中に通行止めをしないような改良計画を要望。国・県河川担当の協力をお願いしたい。
- ・J R 東海の水資源調査だけでなく、村でも独自に調査を行うべきではないか。
- ・水資源調査に所有者が立ち会うなど、同じ観測データで水資源の監視と協議を行うべき。
- ・協定書は、県・関係市町村と協定内容を検討し、必要な協定を締結するよう求めていく。

○中部電力による既設電線の太線化工事について、議会・関係自治会への説明内容を確認

○次回の委員会は、J R 東海の担当者の出席を要請し、説明を求めることとした。